

令和6年度 大田区立久原小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月7日

○児童数819名、第4・5学年は各5学級、それ以外の学年は各4学級、全26学級の大規模学校である。本校は、教室と廊下の間に壁がないオープンスペースを生かして、学年全体で学び合う場を多く設けているが、一部学年では上下階に教室を分けざるを得ないため、十分な活用が図れない状況がある。担任以外の職員も一人一人のこどものよさや課題に気づき、全校でこどもを見守り、組織的に育てていく。
○コミュニティ・スクールモデル事業実施校として大田区の指定を受け、学校運営協議会と地域学校協働本部(スクールサポートくがはら)の協力をいただきながら地域と協働した教育活動を進めている。校外学習や体験学習等での支援ボランティアのほか、授業外の「読み聞かせ」、「図書館支援」、「芝生刈り」、「おやじの会」など、様々な場面で学校支援活動が盛んに行われている。また、夏休みのワークショップフェスティバル「夏休みドキドキ学校」では、学校と家庭と地域が協力し、60講座の学びの場を設定した。夏休みも、学校はこどもたちの声が響き、賑やかである。
○「地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子 ― 地域連携による「おおたの未来づくり」を目指して ―」をテーマに、生活科と総合的な学習の時間を中心に新教科「おおたの未来づくり」研究協力校として校内研究を進めている。よりよい地域・社会・未来を創造する力が身に付き、自己の生き方を考えることができるようになるために、地域と連携・協働して思いや願いを実現したり、課題を解決したりする学習を行い、児童の資質・能力の向上に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来 し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「将来、自分は社会(みんな)の役に立ちたいと思いますか」の項目に、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	4: 80%以上	本校は、研究主題を地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子へ地域連携による「おおたの未来づくり」を目指して～とし、生活科、総合的な学習の時間を中心に他教科とも関連付けながら教科横断的な学びの研究を進めている。探究する力や創造する力を身に付けさせるための指導の工夫を行っている。ゲストティーチャーに来てもらうなど様々な活動を展開している。また、情報技術を活用できるように、日々タブレットを活用することで技能の習得を行い、学習の場面で活用できるようにしている。 今後は、タブレット学習におけるプログラミング学習にも力を入れて取り組んでいく。そのために、各学年での年間計画を作成し、系統立てた指導が行えるようにする。また、教員の研修も行い、全学級での指導が徹底できるようにする。	A	13	・教員がリードするだけでなくこどもたちの意見を大切にしながらそれを実現させるべく導く教員の姿勢は素晴らしい。どのこどもも生き生きと発言しておりこどもたち同士の意見の相乗効果でさらに意見の幅が広がり様々な創造の力が醸成されている。こどもたちがさまざまな国の文化の違いを知る事で、興味を引き出していると思う。 ・おおたの未来づくり科の本格実施に向けて、着々と学びの研究をしていることがよく分かる。学校・地域が一体となって活動している。関係各者との連携の強化ならびに教員の研究の組織化対策の企画立案を推進して欲しい。こどもたちの地域との関わりを理解させるべく積極的に指導している。これからも、こどもたちの行動につながる事を期待したい。受け身から能動的に動ける心を育てて欲しい。ゲストティーチャーに来校してもらっての生の話を聞けることも大変有意義なことだと思う。将来自分が役に立ちたいと思っているこどもたちが多く、多方面で意欲を感じる。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: 70%以上		B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 60%以上		C	0	
		④自ら設定した課題や地域のニーズに応じた課題に対して、試行錯誤しながらよりよい方法を探ろうとする意欲の向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1: 60%未満		D	0	
お世個 お界別 たと目 をづ標 担な2 うが 人国 を際 育都 成市 し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者のアンケートにおいて「こどもたちは、GTや地域への校外学習、久原フェスタなどを行うことで、学習を深めている。」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	4: 80%以上	本校では、生活科や総合的な学習の時間を研究の中心におき、年間を通して多くの地域の方と連携を図りながら学習を行っている。また、「久原フェスタ」という学習者と参観者が相互に学び合う学習発表の場を設けている。そのため、保護者アンケートにおいても「こどもは、ゲストティーチャーや地域学習、学習発表会を行うことで、学習を深めている」の問いに92.2%の保護者が肯定的な評価があった。 今後は、外国語教育をさらに充実させていくことが重要となる。ALTと密に連携を図り、コミュニケーション能力が向上できる学習展開を行っていく。	A	12	・外国語学習のみならず留学生交流なども積極的に授業に取り入れ国際的な視点の育成に努めている。ALTのみならず、様々な国際理解を深める場、機会をこどもたちのために創造して欲しい。近未来の平和な社会のためにもグローバルな人材育成に期待する。 ・地域のゲストティーチャーを招きながら地域の歴史や伝統を受け継ぐことにも力を注いでいる。国内外の文化交流を通じて多様性の理解につながっていると思う。 ・久原小学校では学習発表会「久原フェスタ」や「夏ドキ」などこどもたちと一体となって学ぶ環境がある。よい刺激になっている。一人一人の児童が意欲的に楽しそうに取り組んでいる。先生方の指導の仕方が良いということがよく分かる。コミュニケーション能力の向上をさらに期待する。今後は、コミュニケーション能力を高めるために、ディベート大会など高学年に実施するのも面白い。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: 70%以上		B	2	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 60%以上		C	0	
		④6年間を通して、継続的に地域を教材とする学習を行うことで、地域社会に関心をもち、自ら関わろうとする素地の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		C		D	0	
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童の自己評価において「学校での勉強や生活に一生懸命取り組んでいますか」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	4: 80%以上	児童アンケート「毎日の勉強が分かる」の間に、93.1%の児童が肯定的に解答している。保護者アンケートでも94.6%の保護者が「こどもは学習が分かり、基礎的な学力が身に付いている」と回答している。教職員一人一人が児童の実態を把握し、反応を予想した授業を展開していることも、成果の要因である。また、「学校での生活が楽しい」の間に、92.8%の児童が肯定的な評価であった。学ぶことが楽しいと思える授業作りを今後も取り組んでいく。 今後は、健康教育や食育の推進のために、年間計画に基づいて確実に指導を行い、基本的な生活習慣のさらなる確立を目指していく。また、幼保小連携協議会や、小中一貫教育の会を中心に、幼保や中学校とも連携を図り、児童の実態把握、引継ぎを行い、円滑な接続ができるようにする。	A	11	・学校管理職をはじめ、教員が一丸となって児童一人一人の力を合わせ、またその個性を大切に寄り添いながら育んでいるのは素晴らしい。学年全員登校の結果にも結びついている。子ども一人ひとりに耳を傾け、個性を大事にしているように感じる。 ・家庭での理解と連携が必要と推察される。保護者との面談等を通じて徹底していきたい項目である。生活習慣の確立に関しては、ゲーム化した取り組みなどよい工夫だなと思っている。 ・一貫性のある教育については取組があまり見えてないように感じる。小中一貫教育の充実を希望する。年長が交流会をするなど保育園との連携もしっかりとって頂いている。 ・「学校での生活が楽しい」という児童が多いところからも我が子を通わせたくっているのだと思う。「勉強が分かる」ことで楽しいと思えることに繋がる。学校公開などで授業を見学しているが、先生方が工夫をした教え方をしていると思う。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: 70%以上		B	3	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 60%以上		C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1: 60%未満		D	0	
		⑤すべての教育活動を通して、児童の個性や能力を大切にする学習環境の構築を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者のアンケートにおいて「学校は教え方を工夫し、分かりやすい指導をしている」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答したと回答した割合	4:80%以上	4	保護者のアンケートにおいて「学校は教え方を工夫し、分かりやすい指導をしている」の項目で、89.4%の肯定的な評価があった。今年度はOJT研修を定期に開催し、教職員一人ひとりの授業改善や指導力向上に力をいれてきた。また、「おおたの未来づくり」に向けての研究や研修も行った。特に、おおたの未来づくりエリア協議会では、成果や課題を各学年がまとめて、近隣校に発表することで、より理解を深め、来年度からの実施に備えることができた。今後も、研修を充実させ教師力の向上を目指し、学校力を向上につなげていく。	A	12	・独自の取り組みは、毎年の教育研究発表会で積極的に共有されている。先生方の日々の研鑽がこどもたちに還元されている。教員の教育力の向上に外部資源を活用してほしい。土日や夜間勤務を減らすため、研修と共に業務量適正化には引き続き取り組んでいただきたい。 ・児童が学校の勉強が楽しい回答しているので、分かりやすい授業を受けているようだ。先生方の指導の良さが現れている。先生同士のコミュニケーションがよいと思う。「分かりやすい指導」の否定的な1割の方の内容を知る必要があると考える。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上			B	2	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			C	0	
		④校内外の研究や研修の成果を自身の授業改善に生かすとともに、OJT等を活用して学校全体の指導力の向上を図っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:60%未満			D	0	
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 援 い き ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童の自己評価において、「学校のきまりを守り、よい学級をつくらう」と回答した割合	4:80%以上	4	児童の自己評価において、「学校のきまりを守り、よい学級をつくらう」と回答した割合	A	12	・児童一人一人をしっかり把握し寄り添って担任だけでなく組織で支援する姿勢が学年ごとの登校数という結果に表れている。 ・児童も教員も生き生きとしており学校全体にとっても活気があります。 ・子どもの諸問題に対し、きめ細かな支援体制が整っているように思われる。児童一人一人を大変大事にしていることが感じられる。不登校や保健室登校に対するサポートはより充実していただきたい。また、いじめに対して早期発見、早期対処をし、自分自身に自信がもてるように指導して欲しい。 ・目標の定義が曖昧なので、指標設定が難しい。本校でできる範囲の工夫と努力をお願いする。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:70%以上			B	2	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:60%以上			C	0	
		④リラックススペースや保健室など児童の様々な実態に応じた学習環境を整えている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:60%未満			D	0	
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 的 境 な を 学 習 く 間 ま と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートにおいて「こどもは、学校や家庭のきまりを守り、安全に過ごそうとしている」の項目に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	4:80%以上	4	保護者アンケートにおいて「こどもは、学校や家庭のきまりを守り、安全に過ごそうとしている」の項目で、97.1%と肯定的な評価が得られた。また、「学校は、避難訓練や安全指導を通して、こどもの安全に対する意識を高めている」の項目で95.8%の肯定的な評価を得ている。今後も安全に関する指導を繰り返し行い、指導の徹底を図る。 また、ICTの効果的な活用に向け、校内研修を行った。日々の授業の中でICTを有効に活用できるよう、さらに教職員のICT活用スキルを向上させていく。	A	12	・ICT環境も整備され、授業にICTの効果的活用を組み込みながらさまざまな手法を用いた魅力的な授業が行われている。ICTの指導は能力別が望ましい。また、外部有識者の力を借りるともう少し柔軟な利活用ができるのではないと思う。デジタルにおける学校や保護者には見えにくい事にどのように対応していくかが課題である。 ・規則、安全に対する教育が浸透しているように思われる。学校でも定期的に訓練を行っており、児童の防災意識も割と高い。日頃の訓練が大事。町で見かける児童は交通ルールを守り、安全に通学している。 ・挨拶活動を通して、顔見知りになる事の必要性に気づいていただきたい。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:70%以上			B	2	
		③危機管理マニュアルの内容を確実に理解し、児童が安全な場で、安心して学校生活を送ることができるように対応する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			C	0	
		④ICT等の研修を行うことで、授業におけるICTの有用性を最大限に高めるとともに、児童一人ひとりの学びを保証する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1:60%未満			D	0	
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者のアンケートにおいて「学校はPTAや地域と協働し、日頃の教育活動や安全な学校生活の充実に取り組んでいる」と回答した割合	3:70%以上	4	本校はコミュニティ・スクールとして保護者や地域の方と連携を図りながら様々な取り組みを行っている。第1学年から第6学年まで、多くの学年で自治会の協力を得て学習を行っている。また、「スクールサポートくぐはら」の協力も得ながら、取り組みをすすめている。保護者アンケート「学校はPTAや地域と協働し、日頃の教育活動や安全な学校生活の充実に取り組んでいる」の項目に95.6%の肯定的な評価があった。 夏休みドキドキ学校や登下校の見守り活動、運動会等の学校行事の運営について、PTAや地域と年間を通して取り組みを行ってきた。今後もコミュニティ・スクールを連携の要として、保護者や地域と連携を深め、協同的に取り組んでいく。	A	14	・コミュニティスクールとしての取り組みを積極的に実施している。そのため、学校、家庭、地域の絆は強く、皆で支え合いながらこどもたちをさまざまな角度から大切に育んでいる。 ・地域との連携がよくできており、その結果をきちんとフィードバックしてくれて学校の方向性・考え方がよく分かった。 ・CSになる前から学校と地域の連携があり、CS指定校となってから更に協力関係が強化されたと思う。地域での子供を見守ることが重要だと思っている。 ・協力的な地域やPTAその他団体ありきの施策を考えるのではなく、非協力的であっても実現可能な施策からスタートすることを心がけていただきたい。 ・コミュニティも生き物であり、現状の極めて協力的な地域特性が永続する保証はないと思われる。情報共有の環境を整備する事が次のステップと思う。 ・地域のつながりは自治会だけではなく、企業商店など、もう少し広げられたらもっとよいと思う。 ・先生方の地域に対する意見をもっと述べて欲しい。 ・私たちは地域の立場で情報提供したり企画を考えこどもたちの力になっていきたいと思っている。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			B	0	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上			C	0	
		④コミュニティ・スクールとして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1:60%未満			D	0	

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す